



高知市では、全面実施となった学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりを、複式学級ではどのように進めていけばよいのか、今年度から初めて第2・3学年が複式学級編制となった久重小学校を拠点とし、研究してきました。10月14日に行われた<教材研究会>を受け、11月17日(火)に行われた、第4回「複式(国語科)授業づくり講座<授業研究会>」での実践を紹介いたします。



久重小学校の提案に対する講師の指導・助言
 講師:松永 立志 先生(前鎌倉女子大学 准教授)

○主体的な学び
 児童に言語能力や語彙の習得状況をメタ認知させるためには、学習へ向かう時の「意図(思い・願い)」、意図をもつには具体的な「相手意識・目的意識」、相手意識・目的意識をもつためには適切な「言語活動」が不可欠であり、相手や目的を意識した「意図」は個人のめあて・振り返りに表れる。この両者のサイクルが「主体的な学び」を作り上げる。



○「話すこと・聞くこと」の学習指導について
 音声言語は消えてなくなるため、評価が難しい。そのため機器の活用が必要である。録音・録画することで、自己評価・相互評価につなげることができる。また、スピーチメモに頼りすぎると「話すこと」ではなく「読むこと」になってしまう。組み立てを考えるには文章化することも必要であるが、文章→文末を省略→キーワード・キーセンテンス→単語、というように段階を追って、メモを工夫する必要がある。

○学年別指導と同単元指導の工夫(複式学級)
 教材研究をし、指導事項を比較することで同単元指導が可能であるか考える。国語科は「低・中・高」で指導事項が提示されているため他教科に比べて組みやすい。同単元指導をすることで、複式指導の課題でもある直接指導をする時間を増やすことができる。

○「言葉による見方・考え方」を働かせている児童の姿として、自分のスピーチ動画とデジタル教科書のモデル動画を見比べていたが、児童の変容から具体的な物(動画)を使うことで可視化され「見方・考え方」が活性化されていくのだと感じた。
 ○複式=渡りのイメージがあったが、単元の組み合わせを工夫することで、一緒に指導できる場所、渡りを活用するところを1時間の中うまく組み合わせることができた。
 ○言語活動を設定するときに、相手意識・目的意識・意図をもたせることで、子供たちが主体的に学ぶことができる。意識して取り組みたい。
 ○異学年でも同じ課題を設定することで、身に付けさせたい「資質・能力」の違いが分かり系統が理解できた。

「話すこと・聞くこと」の領域で、1学期は「聞くこと」2学期は「話すこと」の授業づくりについて研究できたことは、関連を意識して指導することができ意義があった。
 また、「資質・能力」を育成するために、デジタル教材やタブレットを効果的に活用することや、毎時間の評価方法を明確にし、C評価の児童にどう手立てをするのか等、常に意識して取り組むことの大切さを学んだ。



原 弘 教諭

育てたい「**資質・能力**」で単元を描く
 ~言葉による見方・考え方を働かせて~

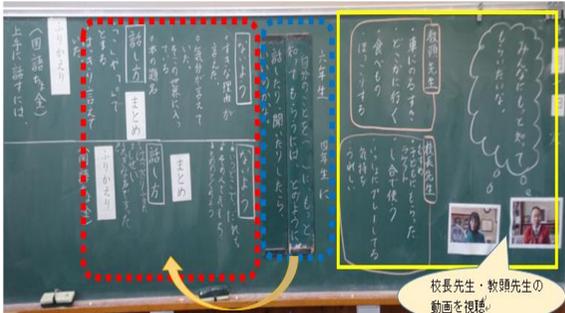
単元名 めざせ スピーチマスター ~上級生にもっと知ってもらおう~
 教材名 第2学年:「たからものをしょうかいしよう」(東京書籍 2年下)
 第3学年:「話したいな、わたしの好きな時間」(東京書籍 3年下)

単元の記録

毎時間、単元で育成したい「**資質・能力**」(赤い囲み部分)を明確にする

「**言葉による見方・考え方**」を鍛える

第一次 2年 1/7 3年 1/8



「校長先生の宝物の話」「教頭先生の好きな時間の話」, デジタル教材のモデル動画を見て、話し方・内容のよかったところを見付ける。

本単元で育成したい「**資質・能力**」

【学びに向かう力、人間性等】

【2年】
 ・聞き手のことを意識して、話の構成や話し方を考え、自分の思いや考えを伝えようとすること。

【3年】
 ・聞き手に分かりやすいように、話の中心が伝わる組み立てを考え、聞き手の様子を見ながら自分の思いや考えを伝えようとする。

【知識及び技能】

【2年】
 1) 言葉の特質や使い方に関する事項。
 イ 話し言葉と書き言葉
 ・筆跡と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すことができる。

【2年】
 A 話すこと・聞くこと【話すこと】
 イ 構成の検討・考えの形成
 ・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基いて、話す事柄の順序を考えることができる。

【3年】
 1) 言葉の特質や使い方に関する事項。
 イ 話し言葉と書き言葉
 ・相手を見て話したり聞いたりするともに、言葉の対称や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。

【3年】
 A 話すこと・聞くこと【話すこと】
 イ 構成の検討・考えの形成
 ・相手に伝わるように、理由や事柄などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。

第二次 2年 2/7 3年 2/8



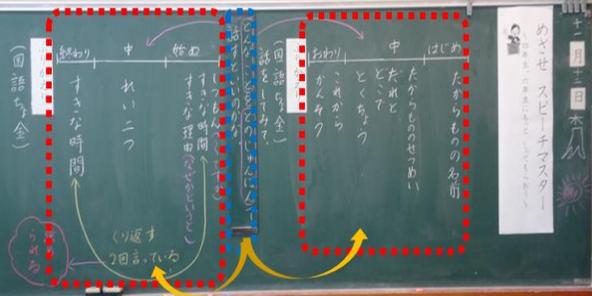
話す内容について考える。紹介したい宝物・時間を複数集め、一番伝えたいことを一つ決め、理由を考える。

2・3年複式での同単元指導

時	学習内容	時
1	ゴールイメージ・見通しの共有(紹介するためのスピーチ)	1
2	情報収集 → 伝えたいことの決定	2
3	<2年: 順序「始め・中・終わり」> 構成の検討(構成メモ)	3
4	<3年: 構成メモ「中・終わり」の内容> 本時 話し方の検討(練習①)	4
5	<2年: 順序と声の大きさ> 話し方の検討(練習②)	5
6	<3年: 表現の工夫・目録・手振り> 異学年に伝える	6
7	<2年生: 順序と話し方> 単元の振り返り	7
8	<3年生: 中心と話し方>	8

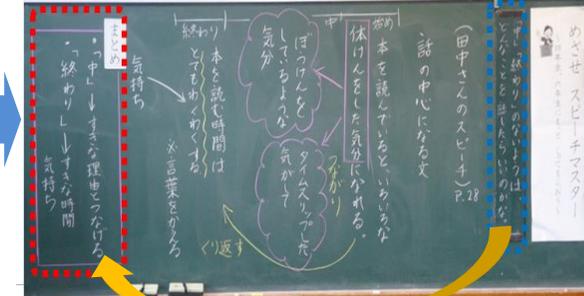
異学年の人にも、自分のことを知ってもらってと仲よくする
 言語活動を通す

第二次 2年 3/7 3年 3/8



2年: 話すことの順番(「はじめ」「中」「おわり」)の構成を考え、話す内容を付箋紙にメモする。話す練習をする。
 3年: 具体例の中から話す内容を決め、組み立てを考えて、「はじめ」の内容を付箋紙にメモする。

第二次 3年 4/8



3年: 組み立てを考えて、「中」と「終わり」の内容を付箋紙にメモする。話す練習をする。
 「中」…「はじめ」に書いた好きな理由と関連させて具体例を書く
 「終わり」…好きな時間と好きな理由を再度書く

第二次 2年 4/7 3年 5/8(本時)



3年 <言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿> 2年

【評価規準】【主体的に学習に取り組む態度①】
 ◎進んで、話の中心が分かりやすく伝わる組み立てや話し方を工夫し、聞き手のことを意識して自分が好きな時間について紹介しようとしている。

【評価規準】【主体的に学習に取り組む態度②】
 ◎進んで、紹介したい事柄の順序や話し方を工夫し、聞き手に伝わるように、自分の宝物を紹介しようとしている。

【評価方法】(行動観察・付箋メモ)
 ○話の中心(伝えたいこと)の「始め」と「終わり」の表現を工夫し、目録や手振りに気を付けて話そうとしているか確認

【評価方法】(行動観察・付箋メモ)
 ○「中」の部分の事柄について、相手に分かりやすく伝わる順序を考えて、目録や実物の示し方に気を付けて話そうとしているか確認

授業改善の工夫 「話すこと・聞くこと」の領域



○グッドモデル活用の工夫
 「言葉による見方・考え方」を働かせるためには、デジタル教材のモデル動画等を活用することが効果的である。必要に応じて繰り返し動画を視聴できる環境を整える。



○音声言語の可視化の工夫
 音声言語の特性を踏まえて、タブレットで録画し自分のスピーチを可視化する。動画を確認することで、よりよいスピーチにしようと調整力が働く。前後の動画を比較させることで、改善状況をメタ認知させる。



○情報の整理の仕方の工夫
 各学年で個々の考えをホワイトボードに書かせ、比較させる。児童が司会となり情報(共通点)を整理させ、「内容」「話し方」に分類させる。



○共有の工夫
 2・3年生(異学年)で聞き合い評価し合う。2年生は3年生に、「見習いたいところ」を、3年生は2年生に「もっとよくなるアドバイス」を伝える。